

令和8年度 盛岡市立高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

令和8年6月1日（月）13:45～14:30

盛岡市立高等学校 会議室

《学校運営協議会委員》

上白石実委員、佐藤孝之委員、佐々木美子委員、井上美智子委員、佐々木重喜委員、幅野崇久委員、鷹木祐介委員、中野亜希子委員、工藤昭敏委員、沼山信也委員、北島亨委員（学校職員）、丹野満委員（学校職員） 【出席7名】

《学校職員》

三浦顕悟校長、千葉浩副校長、畠山恵子副校長、森田美彦事務長、伊藤淳教務主任、佐久山要生徒指導主事、鈴木麗進路指導主事

1 開会 ＊全体進行（畠山副校長）

2 校長あいさつ

コミュニティスクールに移行して2年目となる。有識者の皆様からいただいたご意見を学校運営に反映していきたい。

学校経営方針や教育課程等において、忌憚のない意見をいただきながら学校運営を進めていきたい。今回は年度初回ということで、学校を知っていただくことを主眼に進めたい。

3 参加者自己紹介【p. 1】

4 協議（議長：上白石会長） Q：質問 A：回答 C：感想・意見

（1）令和8年度学校運営方針について（三浦校長）【p. 2】

・今年度赴任して、教職員には最初に、県民が幸せだと感じる幸福感としてよく話題になっている「ウェルビーイング」、生徒や保護者、教職員の幸福感を上げるような経営をしたいと伝えた。教職員が笑顔で仕事をし、お互いコミュニケーションが取れている風通しがいい職場というのは、教育活動が進みやすい。職員が楽しく仕事をする、そして生徒の前でも笑顔で授業する、そのような学校経営をしていきたい。

【教育方針】

「人間性の高い生徒の育成」を重点として取り組む。教職員が日々の授業や部活動、学校行事で生徒と関わり、生徒と向き合い、日常の声掛けを大切にすることが人間教育そのものである。生徒と関わる時間を大切にする分、他の業務や会議は精選し、スクラップを推進する。

【重点項目と本年度の取組】

・「1 学力の向上」

授業を中心とし、教師の授業の質を高める。「主体的・対話的で深い学び」の推進として、生徒の言語活動を増やし、考えをまとめて発表するような授業を展開する。教師が授業に集中し、授業を受けた生徒が「楽しい授業だ」「わかりやすい授業だ」と感じることで、教師の充実感ややりがいを感じられるように取り組みたい。

・「2 部活動、特別活動の振興」

生徒の人間性を高めるために重要な取り組みである。本校では676名、83%が部活動に所属して熱心に活動しているが、課題として教師の勤務時間外在校等時間が長時間となっているため、働き方改革が急務である。今年度は考查期間中の午後に会議や研修会は設定しないこととした。その他については状況を見ながら、今後も働き方改革を推進していく。

・「4 規律ある生活習慣の確立」

最重要課題とされるいじめについては、生徒指導課を中心に方針を立てて対応している。教職員

ができるだけ生徒と接する時間を増やすことで生徒とのラポートを築き、いじめの早期発見につながるよう取り組みたい。

・「5 保健衛生・安全指導の推進」

安全対策として、部活動には顧問が必ずついて指導するということを基本とする。今年度は職員会議中も巡回指導職員を配置した。数年前に他校で発生したハンマー投げや槍投げの事故は、発生時に顧問がついていない状況であった。生徒の命や安全を守るため、部活動での安全指導を徹底していく。

【主な目標指標】

・「生徒が主体的に選択した進路を達成した割合 100%」

生徒の進路は学校が決めるものではなく、生徒が主体的に選ぶものである。「岩手モデル」にも記載されている「生徒が自ら選ぶキャリア教育・主体的なキャリア教育」として取り組みたい。

Q：定期考査中の会議と研修カットは何日ぐらいになるか。

A：4日間の考査を4期、計16日間となる。職員の協力を得て、別日に設定することとした。

C：中学校でも同様に取組もうと考えている。小学校から「期末週間は子どもたちの下校時間が早くなる」という連絡がくるのを親として見ていて、中学校でも取り入れたらいいのではないかと考えているところだった。高校での取組状況を参考にしたい。

Q：授業の質を高めるための校内研修や職員研修にはどのような計画があるか。

A：今年は互見授業の時期設定はしていない。普段から気軽にコミュニケーションができる風通しの良い職場を目指しているため、日常的にお互いの授業を参観したり連携を図ったりと、各教科で情報交換しながら授業改善に取り組んでほしいと考えている。先生方には教材研究の時間を確保してほしい。教師が十分に準備している授業は生徒に伝わる。研修に関しては具体的に指示していないが、今後検討していく。

C：自分が現役教員だった頃は何となく進めていた授業を改めて振り返り、教えるというのは怖いものだ、責任があるものだと感じた。何をどのように教えるか、質的なものや教える責任を考えた時、授業の一時間一時間は大事だと感じる。

A：本校の授業としてはグループワークを多く取り入れていると感じる。また、ICTを使用した授業が多くなってきている。動画やプレゼンテーションソフトを使用した授業が多い。文部科学省から「学びの多様化」が示されている中で、こういった授業が効果的かを考えていく必要がある。

◆令和8年度学校運営方針について承認

(2) 令和7年度教育活動報告及び令和8年度 of 取組について

①学校概況について（千葉副校長）

【令和8年度の学校概要】 p. 4～5

- ・今年度新入生 267 名、全校 811 名在籍。そのうち男子生徒が 65%を占める。
- ・生徒の出身地は6割が盛岡市、3割が滝沢市、その他県内各地から入学。下宿生もいる。
- ・県内公立大規模校は南昌みらい高 1100 人、続いて 800 人規模の盛岡一高、盛岡三高、本校。
- ・県内私立大規模校は盛岡中央高、専大北上高が 800 人規模。
- ・職員数 74 名（会計年度任用職員含む）。教員 62 名、うち講師 5 名。
- ・公立高校で唯一の専任司書配置。盛岡市会計年度任用職員として魅力化コーディネーター配置。
- ・今年度内の校舎LED化が決定。

【DXハイスクール】 p. 6

- ・3年前から文部科学省が開始した補助金事業。初年度 1000 万円、昨年 500 万円、今年度 300 万円の予算でデジタル教育の強化と次世代人材を育成するもので、本校は採択3年目。
- ・プロジェクターやモニターの購入、Wi-Fi 設置により、施設面が充実してきている。

【総合探究課の新設】 p. 6

- ・「総合的な探究の時間」（必修科目）の学習を体系的に進めるために新設。3年間で系統立てて探究活動が行えるよう校内体制を整備。
- ・株式会社 Inspire High で提供されるプログラムを活用。1年生：自分探しや自己理解の深化、2年生：地域についての理解とプレゼンテーション手法の学習、3年生：テーマを決定した個々の探究活動。
- ・AIを活用し非認知能力をデータ化する「Ai GROW」を今年度導入。探究活動の評価だけでなく、面談や進路指導等に活用していく。

【今年度高総体結果速報】

- ・男子新体操 30 連覇。現在東北大会に向けて強化中。
- ・陸上競技男子総合 2 位、女子総合 3 位。個人男女合計 5 種目で優勝。インターハイ予選となる東北大会に陸上競技部 39 名出場決定。
- ・バドミントン男子団体 3 位、個人ダブルスで東北大会出場決定。
- ・バスケットボール男子 3 位。
- ・ソフトテニス男子団体 3 位。女子個人ダブルス 1 組がインターハイ出場権獲得（本校初）。
- ・セーリング（個人出場）で東北大会出場決定。
- ・少林寺拳法インターハイ出場決定。
- ・サッカーが現在専大北上高と準決勝で戦っている。（結果 0-6 で敗退、第 3 位。）

【文化部活動】

- ・岩手県高等学校ワープロ競技大会団体 2 位、1 名が個人で全国大会出場決定。

②教務課（伊藤淳教務主任）

【過去 3 年の入学者選抜の概要】 p. 5

- ・2024 年は推薦入試があったが、2025 年からは県立高校で実施している特色入試を導入。
- ・本校入試は前期、後期という形で実施。特進コースは 35 名定員のうち後期定員が 10 名。
- ・普通科特進コースは定員 35 名に対して今年度最終合格者 29 名、普通科普通コースは定員 160 名に対して最終合格者 160 名、商業科は定員 80 名に対して最終合格者 78 名。
- ・2024 年も今年度と同様の状況であったが、盛岡南高と不来方高が統合して南昌みらい高がスタートした年だったことが影響していると考えられる。
- ・盛岡市も少子化が進んでいる中で、今後定員割れが進むのではないかと予想される。今年度は入試や教育課程のあり方について協議を重ね、本校の特色を中学校にどうアピールしていくか検討する段階である。中学生が本校に何を期待しているか、在校生にもアンケートを取りながら検討していく。
- ・生徒の部活動と学業の両立、教員の働き方改革という両面から、今年度は月曜日と火曜日の 7 校時授業を 45 分授業とし、昨年度よりも 30 分早く授業が終了するよう時程を変更した。今後は生徒と向き合う時間を確保するために、来年度以降どういう教育課程にしていけるかを真剣に考え、地域の声を吸い上げながら学校の魅力化を図っていきたい。

③生徒指導課（佐久山要生徒指導主事）

【部活動所属人数】 p. 5

- ・一年生の部活動加入率が高い。特にバレー部、サッカー部男子、剣道部男子、硬式野球部。

【生徒の安全確保】

- ・4 月 1 日から自転車の青切符制度が導入（16 歳以上対象）。交通違反者には反則金が課せられる。
- ・今年度は新入生の自転車事故が減少。昨年度 9 件の事故報告があったが、今年度は 2 件と激減。青切符制度導入効果や中学校段階での指導の成果ではないか。
- ・本校自転車通学生のヘルメット着用率 17.2%（昨年は 8.7%）。
- ・熊対策：岩手県が登録を推奨しているアプリ（Bears・ベアーズ）活用の呼びかけと、熊に出くわした際の対処法（致命傷を防ぐために鞆で頭と首を隠す等）を伝達していく。

- ・ 昨年はサイクリングロード等学校周辺での熊目撃情報があったため、今後注意していく。

④進路指導課（鈴木麗進路指導主事）

【生徒の進路状況の傾向】 p. 7～p. 8

- ・ 9割以上が進学、1割以下が就職。ほとんどの生徒が進学を希望。
- ・ 全体の50%が四年制大学、40%がその他専門学校等への進学、10%以下が就職。
- ・ 地域別では県内6割、県外4割。
- ・ 本校生徒の進路希望は多様であり、生徒個々に応じた対策を講じる必要がある。進路指導課として、生徒の目標達成に向けて支援していきたい。

Q：7校時授業日の授業時間を45分にして生徒と向き合う時間を確保したとのことだが、どのような対応をしているか。

A：多くの生徒が部活動に取り組んでいるので、部顧問として部員と関わる時間は増えているかと思う。部活動に加入していない生徒であれば、担任として気になる生徒と個別に面談等しながら生徒が抱えている悩みを聞き、早期対応につなげている。昨年度までの7校時授業日の授業終了時刻は16時半頃で、職員の働き方にも余裕がなかった。そこを考慮した校長の判断の下、今年度は取り組んでいる。

A：7校時終了後の部活動開始時刻は17時頃となり、部活動終了後、生徒は真っ暗な中を下校することになる。非常に危険であり、生徒の安全が大事だと判断した。部活動開始時刻が遅くなっても、活動時間を削りたくないために遅くまで活動してしまうという状況をふまえて、授業の短縮を決定した。

◆令和8年度学校運営方針について承認

5 その他

(1) 提言等(各委員から)

A委員：定員確保の問題については、私立学校の授業料無償化に加えて子ども自体が減少しているという状態もある。選んでもらえる高校になるにはどうしたらいいか、もう少し具体的な中長期の学校運営計画を考える必要がある。危機意識は伝わってきたが、具体的にどのように魅力を発見しアピールしていくか、検討をお願いしたい。私立高校であれば取り組みやすいが、公立高校はどうしても人事異動で職員が入れ替わるため難しい面もある。それでも、今検討が必要なのではないかと感じている。

B委員：現在各校で実施しているコンプライアンスの取組について、市立高校はどのように進めているのか。昨年様々な事案があったことから、職員のスマートフォンによる生徒の撮影は全面禁止とし、学習活動中はスマートフォンもできるだけ所持しないこととした。しかし、行事記録に必要なため、急遽予算を捻出してデジタルカメラを購入し、動画撮影等をしている。働き方改革については思い切った取り組みをされていると感じた。本校ではこれまで年に2、3回、PTAと生徒、教員が割当地区に朝5時台に集合して清掃活動等をしていたが、今年度は実施しないこととした。先生方にはまず自分の地域活動への参加を優先してもらうことにした。それから、最初に授業参観させてもらったが、今は生徒達が立派で、授業内容を理解していてもしていなくても理解したような顔をしている。中学校でもそうだ。現在の勤務校には若い頃に勤めていて、今回二度目の勤務になる。子どもたちは真面目に授業を聞いているが、本当に分かっているのかと聞きたくなる。昔の生徒は、分からなければ「分からない」とはっきり意思表示した。そこで、何度か説明してようやく理解できたということもあったが、市立高校では分かっているか分からないか分からないような顔をして黙っている生徒はいる

のか。アンケート調査により授業が理解できているかどうかを時々確認したりもするが、そういうことも必要だと感じた。

C 委員：近所に住んでいるが、市立高校の生徒に会うと挨拶してくれる。自転車マナー等についてもきちんとヘルメットを着用している。生徒が頑張っている様子を見ているので、地域で学校を見守り、学校をバックアップしていきたい。

D 委員：現在の担当業務が高校生の探究学習支援で、探究活動を通して高校生に盛岡の魅力を感じてもらったり、盛岡への愛着を育んだりする活動に取り組んでいる。カワトクの地下に拠点を設けて活動しているが、話を聞きたいと連絡を受けて高校生の対応をすることがある。限りある時間で内容を深めていきたいのだが、時々「先生に言われたから来ました」という生徒がいる。我々の活動を一つのツールとして活用してもらえるのは大変有難いし、高校生と話す機会はなかなかないので積極的に活用してほしいのだが、何か一つ目的を持って来てほしい。「ここを聞きたい」「ここを調べたい」というものを持って来てもらえれば、我々の目線と生徒の目線が合い、深い話になっていく。一步踏み込んだ部分での目的を持ってもらえると助かる。

E 委員：授業を短縮することで先生方が生徒達と向き合う時間を確保する方向に向かっているという話を聞き、良かったと感じている。自転車通学のヘルメット着用率も去年に比べて随分向上している。娘も以前は自転車通学をしていてヘルメットも購入したのだが、女子は髪型を気にするためかヘルメットを被りたくないようで、今はバス通学に変更した。学校が子ども達の健康や安全を第一に考えていることは有難い。

F 委員：卒業生として今在校生に伝えなければならないことや、創立 110 周年に向けて今後改革しなければならないことを考えていきたい。明日 1 学年の総合的な探究の時間で講義をするよう依頼されている。盛岡市立高校の歴史を伝えることで、「今この学校があるのはこういう歴史があるからなのだ」と生徒の気づきにしてもらい、この学校をどうしていくか呼び掛けながら学校づくりをしたい。今の生徒はおそらく加賀野校舎のことも本校の部活動が盛んな理由も分かっていない。先生方の中にも学校の歴史がないので、明日の講義を何かのきっかけにできればと思う。創立 110 周年はあと 4 年後なので、その時に今まで以上にいい学校にしたいという卒業生としての思いがある。今は先生方が今後の学校を創っていく時期だと思うので、「あの時やってよかったな」と思える 1 年にしていきたい。

(2) 今後の学校運営協議会開催日程について（畠山副校長）

- ・第 2 回は 8 月 29 日（土）開催の桜窓祭（文化祭）一般公開の自由参観とし、会議は設定しない。参観の感想を後日集約した上で共有。追って後日案内を送付する。
- ・第 3 回は 2 月 15 日（月）から 19 日（金）の期間に開催予定。日程が決定したら追って連絡する。

6 閉会